

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2018年6月29日

川越市長 川合善明殿

提出者

住所 埼玉県川越市 大字栄1番地

氏名 東洋インキ株式会社 埼玉製造所

埼玉製造所長 柳 正人

電話番号 049(233)2211

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	東洋インキ株式会社 埼玉製造所
事業場の所在地	埼玉県川越市 大字栄1番地
計画期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	化学工業／印刷インキ製造業
②事業の規模	779億円／年（平成29年度・T I 単独）
③従業員数	532人（平成30年6月1日現在）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙のとおり

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成29年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>各部門の省材委員を中心に、各種廃棄物削減活動を行った。生産工程のロスや生産残品（製品にならないもの）の削減に努め、廃棄物削減を実施。</p> <p>発生した廃棄物を単に廃棄するのではなく、有価物処理の検討や実施、また他の物に転用出来ないかを検討した。</p> <p>しかし、新製品生産開始による、廃棄物は増加した。</p>	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>前年度からの廃棄物増加要因が避けられない事から、関連廃棄物の目標値は今年度生産予算から増加となるが、その他の廃棄物を微減とする。</p> <p>前年同様に省材委員を中心に活動を行い、各種廃棄物削減活動を継続・検討し、有価物化可能な物の検討も行う。</p> <p>増加が予想される廃棄物については、場内処理検討を行う</p>	

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 一般廃と産廃物別・委託処分先別・荷姿別に分別保管し、一部有価物毎に分別保管している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 有価物割合を高め、廃棄物削減の為、有価物分別を強化し、有価物・一般廃・産廃分別を明確化していく。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	実績なし	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	計画なし	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	実績なし	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組) 特になし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	計画なし	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) 特になし			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	実績なし t t	
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	計画なし t t	
	(今後実施する予定の取組) 特になし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙のとおり t t	
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 可能な限りサーマルリサイクル処理業者・再生利用業者（固形燃料製造や擬木製造）、又は中間処理後再利用処理を行っている業者へ委託した。		

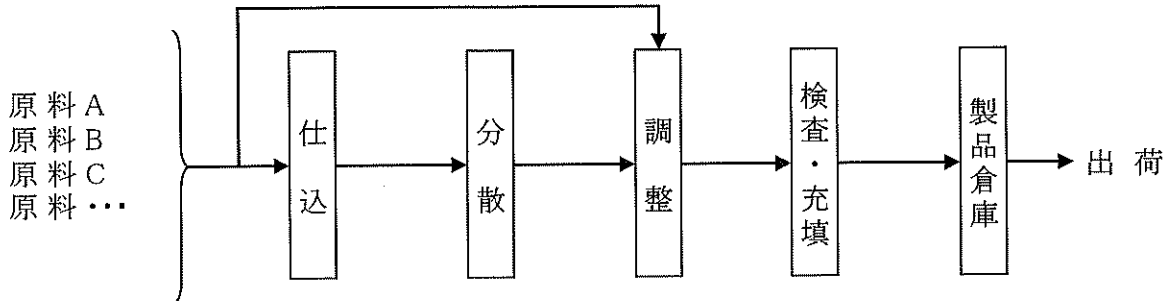
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	全処理委託量	t t
	優良認定処理業者への処理委託量	t t
	再生利用業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t t
(今後実施する予定の取組) 前年同様、排出廃棄物はリサイクル処分を継続する。 また、焼却処分を行っている廃棄物は、熱回収業者への委託割合を高めサーマルリサイクルや路盤材製造等に貢献する。		
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

1. 埼玉製造所において現に行っている事業に関する事項（特別管理産業廃棄物を含む）

○ インキ製造工程の概略

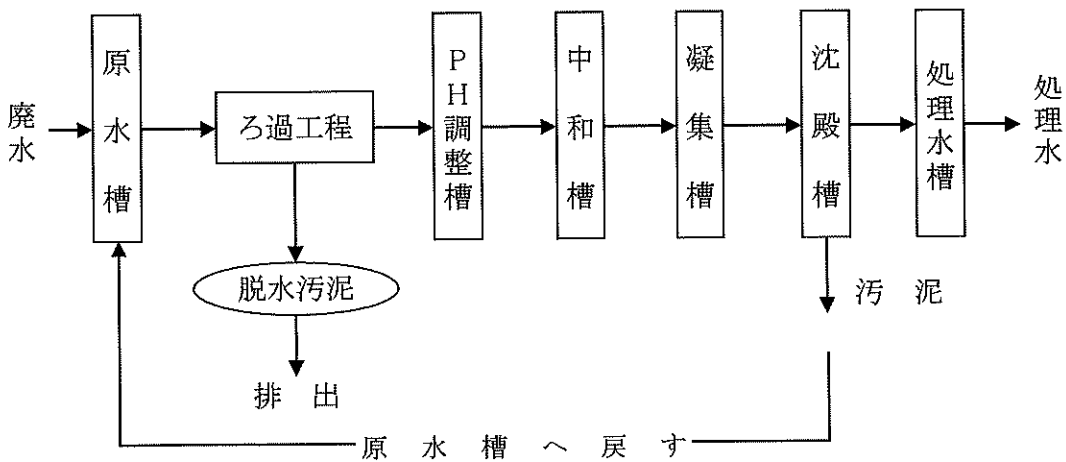


発生する産業廃棄物の種類（特別管理産業廃棄物を含む）

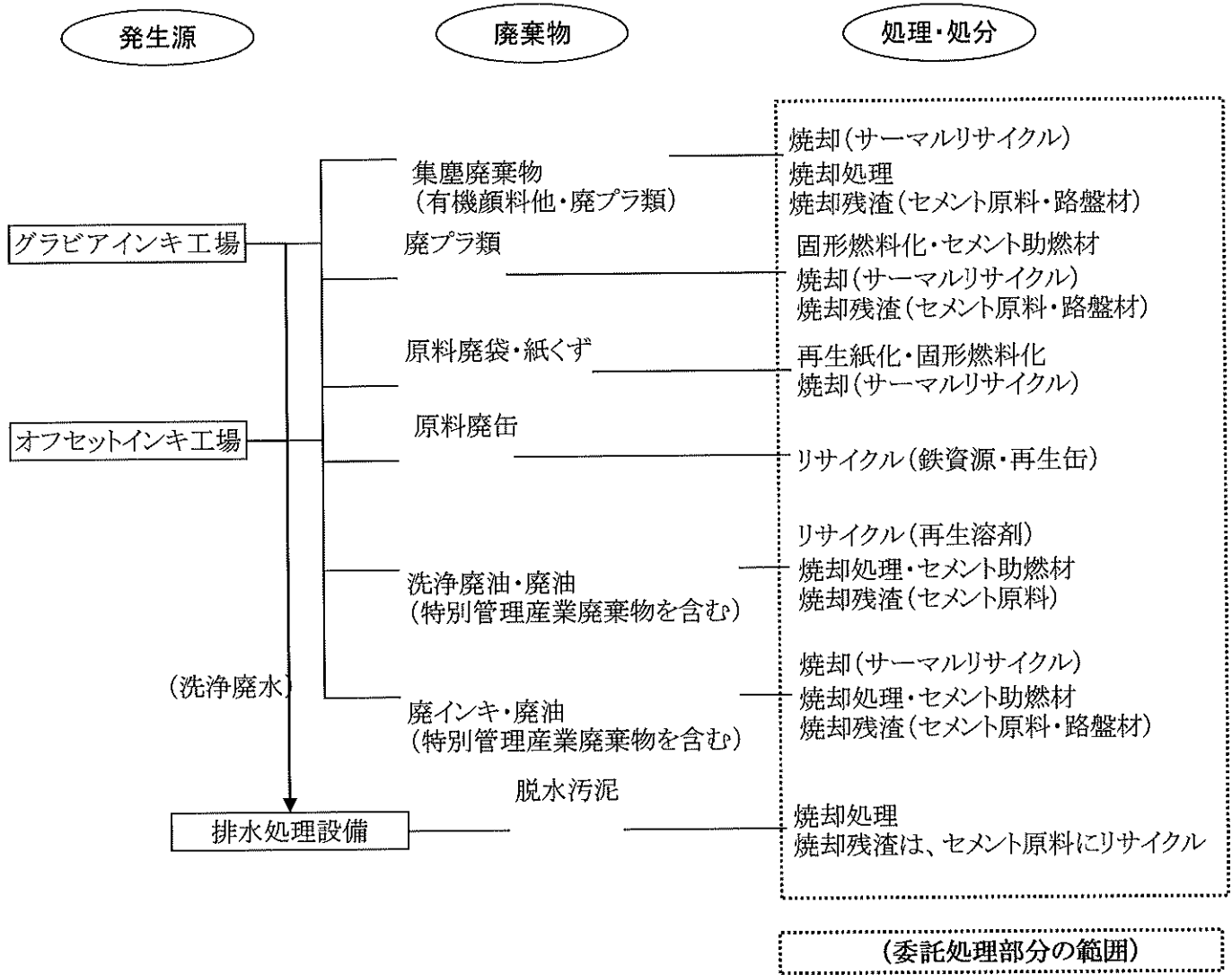
	廃油 (廃水)	廃油 (廃水)	廃油 (廃水)	廃油 (廃水) 廃インキ	廃インキ
集塵廃棄物	集塵廃棄物				
原料廃缶	原料廃缶		原料廃缶		
原料廃袋	原料廃袋				
廃プラ類	廃プラ類		廃プラ類	廃プラ類	廃プラ類

→ 廃水の場合、排水処理施設へ

○ 廃水処理工程の概略



○ 産業廃棄物処理フロー

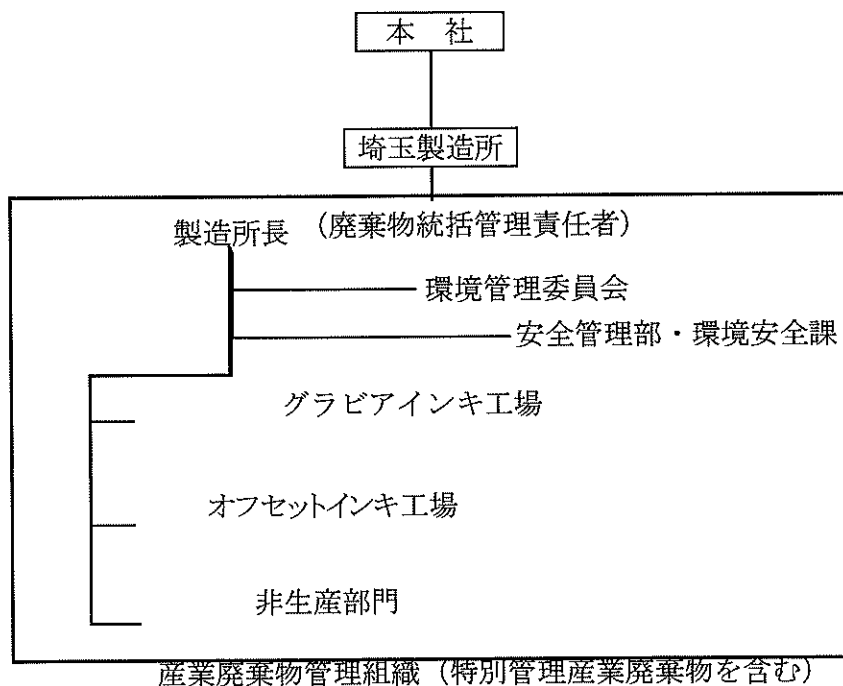




2. 産業廃棄物の処理に係わる管理体制に関する事項（特別管理産業廃棄物を含む）

(1) 責任者及び管理組織図（特別管理産業廃棄物を含む）

統括管理責任者		埼玉製造所長
廃棄物担当		組織名：安全管理部・環境安全課 組織人員：9人
特別管理産業廃棄物管理責任者		環境安全課員
役割	環境管理委員会 (省材部会)	○廃棄物処理に関する検討（特別管理産業廃棄物を含む） 廃棄物の発生抑制、再生利用、適正処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で必要な事項を検討する。 ・委員長－生産部長 ・委員－関係部課長 ・事務局－環境安全課
	処理統括責任者	○廃棄物処理方針の策定（特別管理産業廃棄物を含む） ○製造所の廃棄物管理規程類の策定・改廃（ 〃 ） ○廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認（ 〃 ）
	廃棄物管理担当	○廃棄物処理計画の作成（特別管理産業廃棄物を含む） ○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討（ 〃 ） ○産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握（ 〃 ） ○処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理（ 〃 ） ○委託契約の締結検討（ 〃 ） ○マニフェストの管理（ 〃 ） ○監督官庁への各種報告（ 〃 ） ○社員、関係会社に対する教育・啓発（ 〃 ） ○その他関係する事項（ 〃 ）



## 別紙-4

- (2) 管理体制の強化（特別管理産業廃棄物を含む）
- ・管理体制（組織）  
製造所内の各部署と協力し、廃棄物処理に対応するための組織（環境管理委員会）を編成する。これには下部組織として省材部会を置き専門的な活動を行う。
  - ・管理方法  
廃棄物化回避、減量のための施策、分別の拡大、所内部門別廃棄実績・集計体制の確立等の検討を行う。
- (3) 教育・研修（特別管理産業廃棄物を含む）  
発生する廃棄物の種類、発生状況、処理方法、処理に関する留意事項を整理し、省材部会活動を通して従業員への周知・教育を行う。
- (4) 情報公開（特別管理産業廃棄物を含む）  
廃棄物の処理に関する信頼性を確保するため、廃棄物の発生、分別、再生利用状況についての情報の公開に努める。
- (5) 廃棄物の処理に関する事項  
(排出の抑制、分別、再生利用に関する事項を含む)  
基本事項（特別管理産業廃棄物を含む）
- ・ 産業廃棄物の適正処理を確保するため、関連する法令、その他規則を遵守するとともに行政の環境施策に協力する。
  - ・ 処理業者に委託する廃棄物は、収集運搬から処分に至るまで確認し的確に管理する。
  - ・ 最終処分量に関する目標及び計画は、定期的な見直しを行う。
  - ・ 廃棄物の処理について次に掲げる事項を実施し、関連会社を含めた製造所でいちがんとって廃棄物の減量化に努める。
- |      |   |
|------|---|
| 発生抑制 | ・ 工程内リサイクルを推進する。<br>・ 発生抑制を考慮した製造方法を検討する。 |
| 再生利用 | ・ 新しい資源化を開拓検討する。<br>・ 再生利用ルートの確保と開拓。      |
| 中間処理 | ・ 脱水効率の向上の検討。                             |
| その他  | ・ 処理内容を確認し、処理業者と適正な委託契約を締結する。             |
- (6) 産業廃棄物の分別に関する事項（特別管理産業廃棄物を含む）
- ・ 具体的取組  
部会活動を通じて周知・徹底を行う。
- (7) 産業廃棄物の再生利用に関する事項（特別管理産業廃棄物を含む）
- ・ 具体的取組  
部会活動として新しい資源化の検討、再生利用ルートの確保と開拓を行う。

産業廃棄物の搬出の抑制に関する事項

① 現状 前年度(平成29年度)実績

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック	ガラスくず	木くず	廃酸	廃アルカリ	水銀使用製品産業廃棄物
排出量	283 t	603 t	438 t	4 t	68 t	18 t	1 t	1 t

② 計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック	ガラスくず	木くず	廃酸	廃アルカリ	水銀使用製品産業廃棄物
排出量	280 t	597 t	434 t	4 t	68 t	18 t	1 t	1 t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状 前年度(平成29年度)実績

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック	ガラスくず	木くず	廃酸	廃アルカリ	水銀使用製品産業廃棄物
全処理委託量	283 t	603 t	438 t	4 t	68 t	18 t	1 t	1 t
優良認定処理業者への委託処理量	265 t	307 t	310 t		56 t	18 t		
再生利用業者への処理委託量		155 t	150 t	4 t	12 t	18 t		
認定熱回収業者への処理委託量								
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	265 t	152 t	275 t			18.0 t		

優良業者欄から熱回収業者欄への委託量は、全処理量中の該当数量。

② 計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック	ガラスくず	木くず	廃酸	廃アルカリ	水銀使用製品産業廃棄物
全処理委託量	280 t	597 t	434 t	4 t	68 t	18 t	1 t	1 t
優良認定処理業者への委託処理量	262 t	304 t	307 t		55 t	18 t		
再生利用業者への処理委託量		153 t	149 t	4 t	12 t	18 t		
認定熱回収業者への処理委託量								
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	262 t	150 t	272 t			17.8 t		

優良業者欄から熱回収業者欄への委託量は、全処理量中の該当数量。